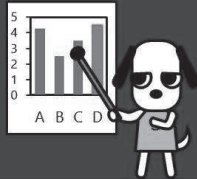


せたがや自治政策研究所
研究活動報告会

資料

「社会調査」調査研究プロジェクト
地域生活とコミュニティに関する調査2024



特別研究員 鈴木颯太
研究員 戸畑粧子

【図 1】

調査の概要

調査の目的

- ・ 地域社会における人との関わりと地域活動の実態の把握
- ・ 地区・地域ごとの傾向、状況を明らかにする
- ・ 2021年度調査(金澤・小山ほか2022)との違いを明らかにする(コロナ禍との比較)。

調査対象

18歳以上85歳未満の(8月1日時点)の区民から無作為抽出された12,000人

調査方法

郵送調査方法

調査期間

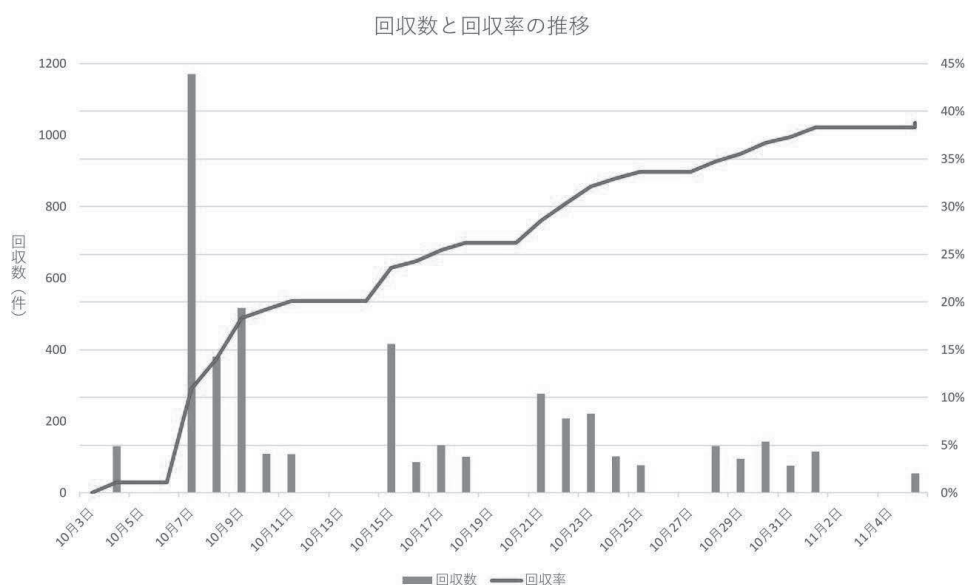
令和6年10月1日(火)～30日(水)

有効回収率

38.7%(4,639票) ※回収率は少数点第2位を四捨五入

【図 2】

回収数と回収率の推移



【図 3】

2024年度調査結果/2021年度調査との比較結果



【図 4】

分析結果

- 2021年度調査結果と2024年度調査結果(速報値)の年齢ごとの比較
- 10歳刻みの年齢別の帯グラフ
 - ✓ 2024年度調査の対象者は18～84歳であるが、比較にあたり2021年度調査に合わせ、30～74歳のサンプルを用いて調査結果を併置した。
 - ✓ 2024年度調査の全体のデータは18～29歳、75～84歳のサンプルを含めたものを示した。

【図 5】

分析結果

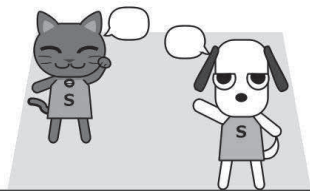
【本日取り上げるトピック】

- 「地域」に関わる質問項目
 - 近所づきあい
 - 地域活動団体加入
 - 地域活動参加
 - コミュニティ・モラル
 - 地域のイメージ(本年度新設)
- 速報値の年齢ごとの大まかな傾向の把握
 - ∴ 厳密なデータの分析や分析結果の解釈等は、来年度に『せたがや自治政策』にて報告予定。

【図 6】

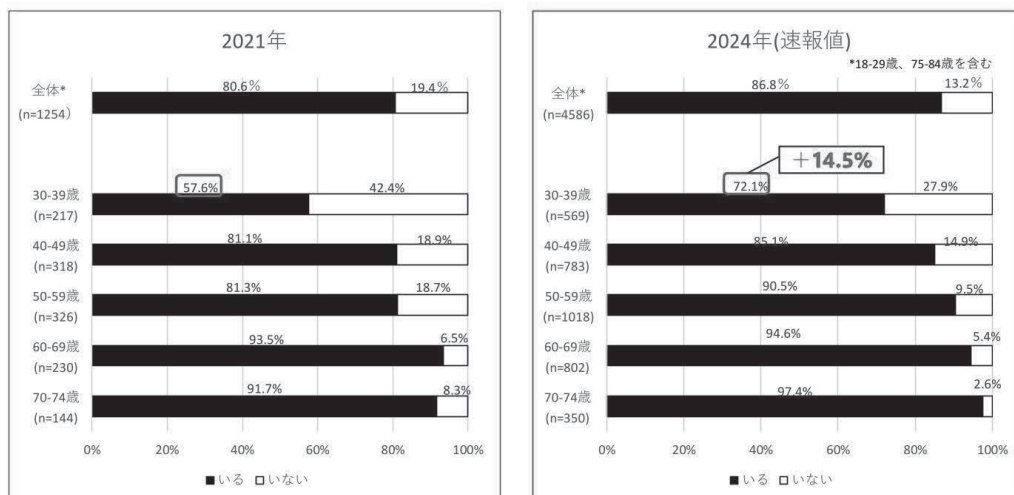
～近所づきあい～

区民の「近所づきあい」の現状と希望に関連する質問項目



【図 7】

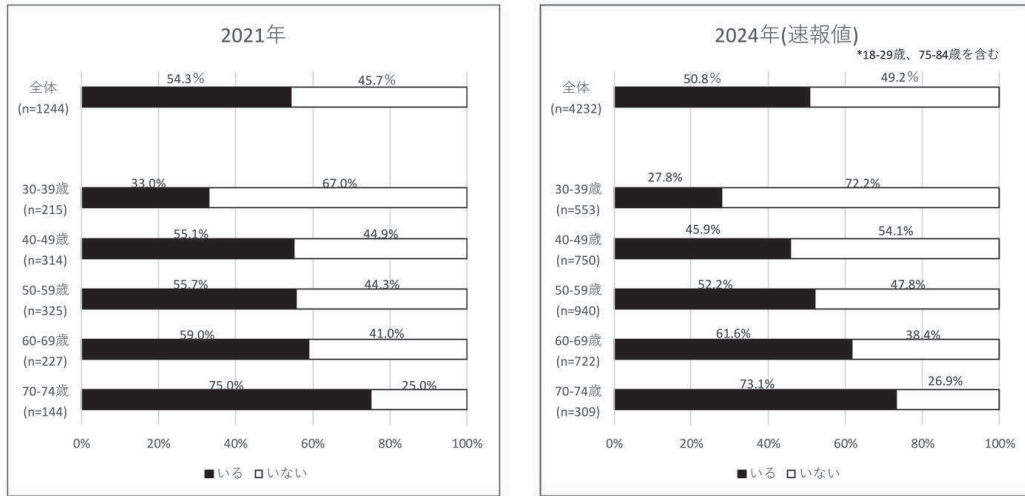
近所づきあい：道で会えばあいさつする人



→全年齢層で増加しており、特に30代の増加の割合が大きい

【図 8】

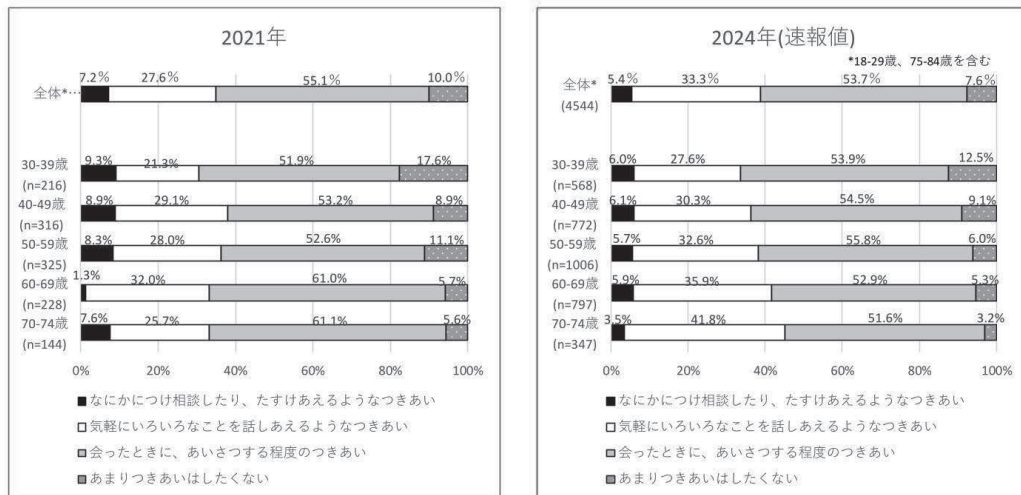
近所づきあい：立ち話をする相手



→年齢層による差がよりはっきりした →全体では減少している

【図 9】

希望する近所づきあい



気軽に話し合えるようなつきあい・会ったときにあいさつする程度のつきあい
→全年齢層で増加している

【図 10】

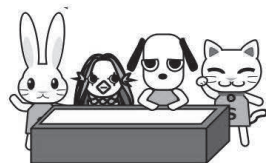
近所づきあい

- ・ 前回調査と比較して年代による差がより明確になった
→ 高齢者層ほど高い、若年層ほど低い
- ・ 「遠すぎず、近すぎず」の近所づきあいを希望する人が、
全体的に増加傾向にある

【図 11】

～地域活動団体への加入～

団体加入の認識を問う設問のうち、地域活動団体の設問を抜粋。



【図 12】

団体加入：町会・自治会（加入認識の割合）

2021年度調査

問28. あなたは、次にあげる団体やサークルに加入していますか。それぞれについて、あてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。

	加入して 積極的に参加	加入している	加入していない
(a) 町会・自治会	1	2	3
(b) 業界団体・同業者団体	1	2	3

質問項目の変更

町会・自治会の加入について問う設問の前に、居住地に町会・自治会があるかどうかを問う設問を設けた。

・「加入/非加入」を問う前に、町会・自治会の有無を尋ねたことで、加入率の回答に影響を及ぼした可能性がある。

・厳密に聞いているので、2024年度調査の結果の方が、より実態を反映していると考えられる。

2024年度調査

問18. あなたのお住まいのまちには町会・自治会がありますか。あてはまる選択肢をひとつ選んで○をつけてください。「1. ある」を選んだ方は、問18-1にもご回答ください。

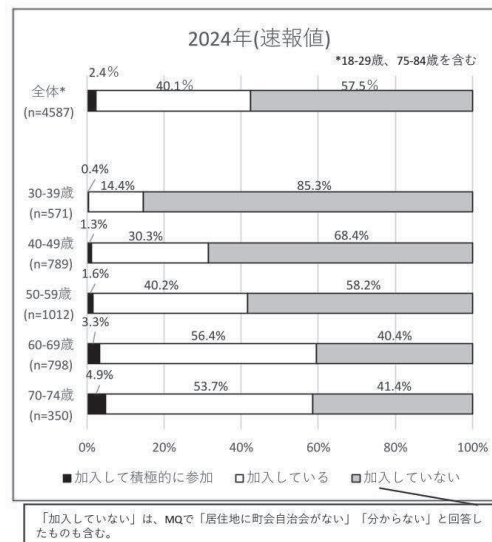
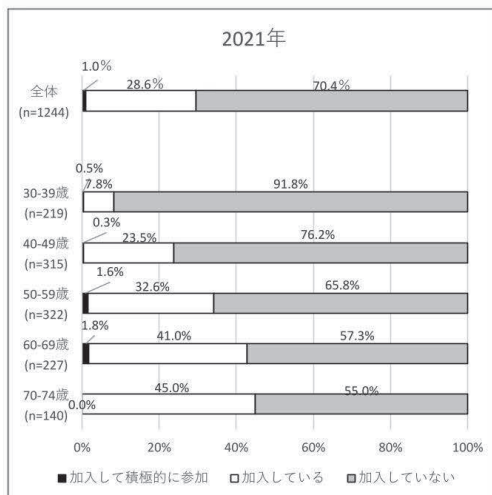
1. ある 2. ない 3. 分からない

問18-1. あなたは、その町会・自治会に加入していますか。あてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。

加入して 積極的に参加	加入して いる	加入して いない
1	2	3

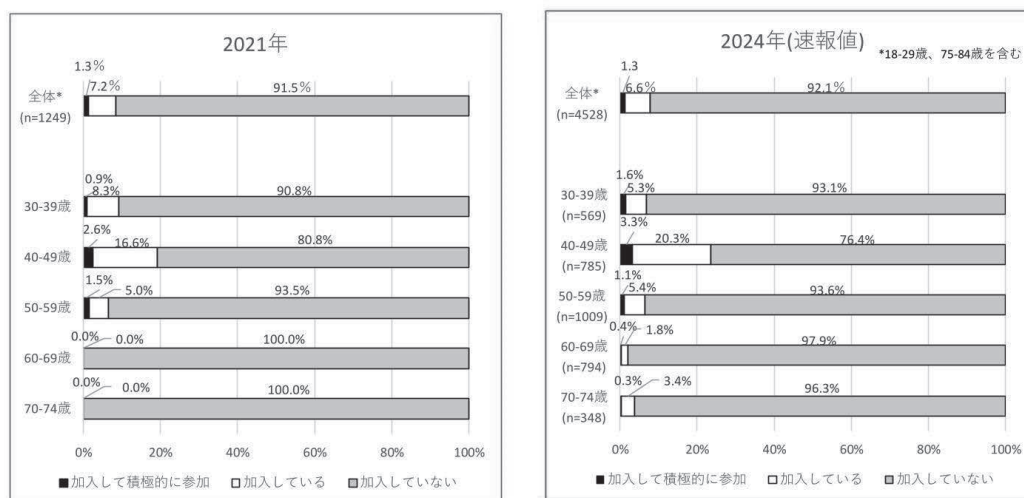
【図 13】

団体加入：町会・自治会（加入認識の割合）



【図 14】

団体加入：PTA・おやじの会（加入認識の割合）



→全体では減少しており、60・70代は「加入している」のみ増加している

【図 15】

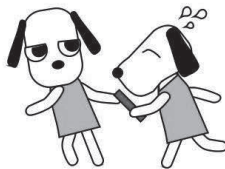
地域活動団体への加入

- ・町会・自治会への加入の認識は上がったが、設問項目の変更によるものか。
- ・PTA・おやじの会への加入の認識は高齢者層で復活の傾向か。

【図 16】

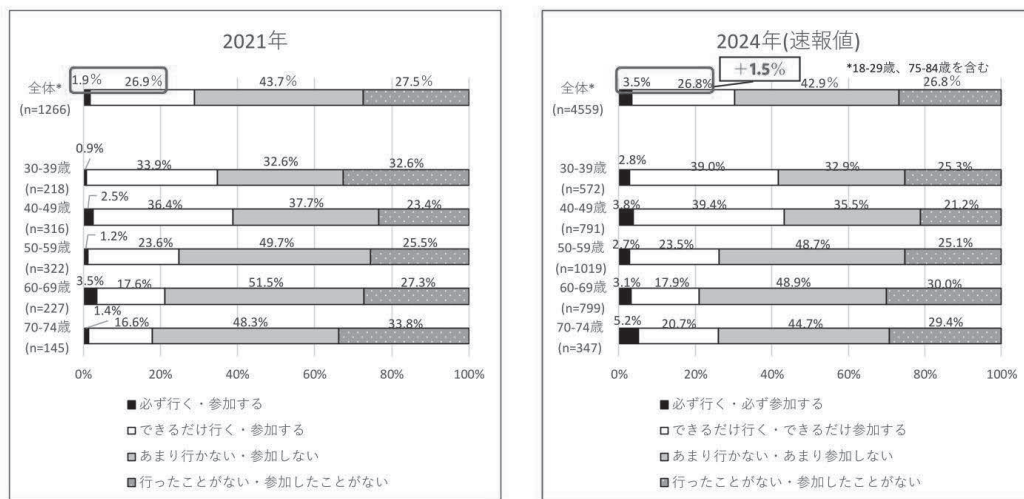
～地域活動参加～

地域活動への参加状況を問う設問のうち一部を抜粋。



【図 17】

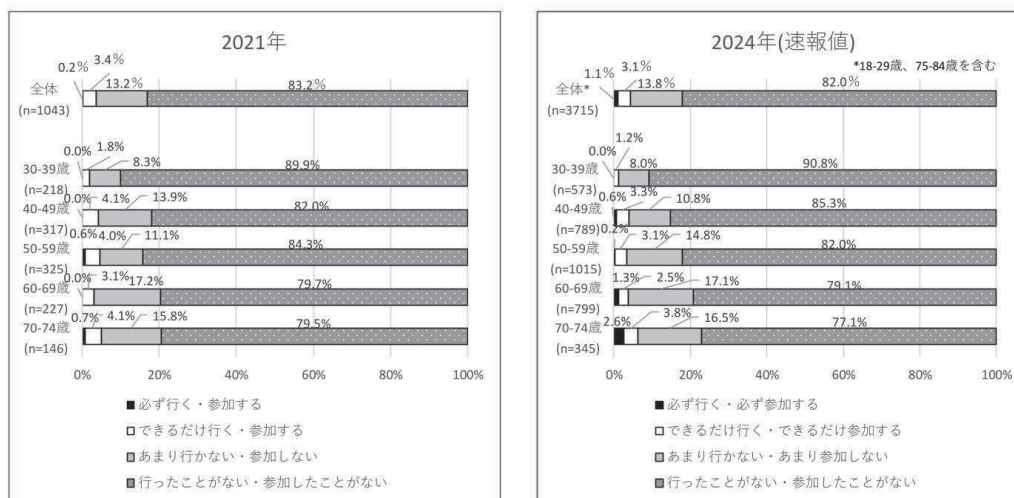
地域活動参加：お祭り・イベント



→70代の参加する割合が増
→全体では参加する割合が微増

【図 18】

地域活動参加：清掃



→全体・年齢別ともに大きな増減はみられない

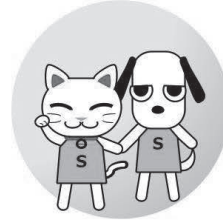
【図 19】

地域活動参加

- ・祭りやイベントなどは微増
- ・清掃や町会自治会の会合など、地域環境の改善や維持を目的とした活動については、大きな変化はみられなかった。

【図 20】

～コミュニティ・モラル～



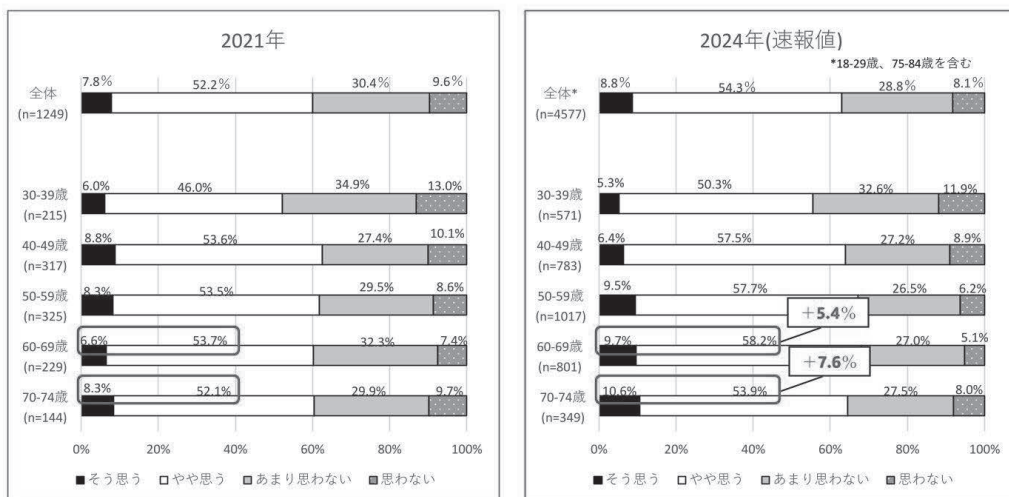
コミュニティ・モラルに関わる設問から一部抜粋。

※コミュニティ・モラル

コミュニティに対してもつ、①情報・関心、②満足感、③主体的関与の構えなど、
3つの要素から考えられるもの(鈴木 1978:14)。

【図 21】

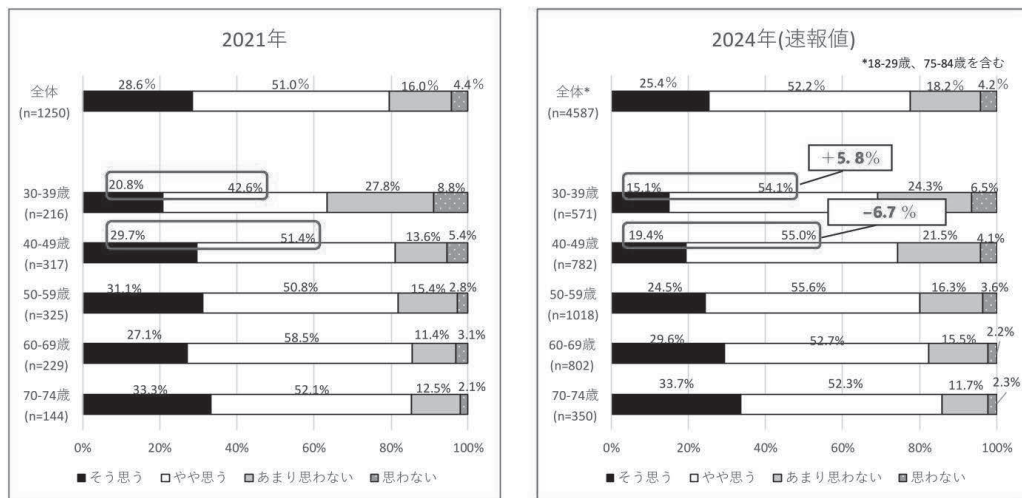
コミュニティ・モラル：このまちのためになることをして何か役に立ちたい



→全年齢増加しており、特に60・70代が増加している

【図 22】

コミュニティ・モラル：もし災害が起きたら、住民同士でたすけあうことができる



→年齢による差がよりはっきりした
→全体では微減しており、特に30・40代は増減の割合が大きい

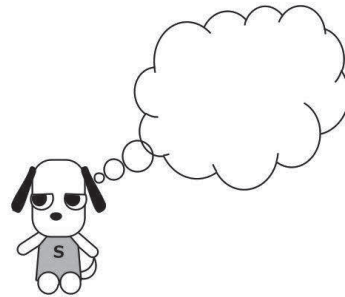
【図 23】

コミュニティ・モラル

- ・「このまちの役に立ちたい」という意向がやや増えた。
- ・一方で「災害時に助け合える」という考えはやや減り、年齢層によってその差が顕著になった。

【図 24】

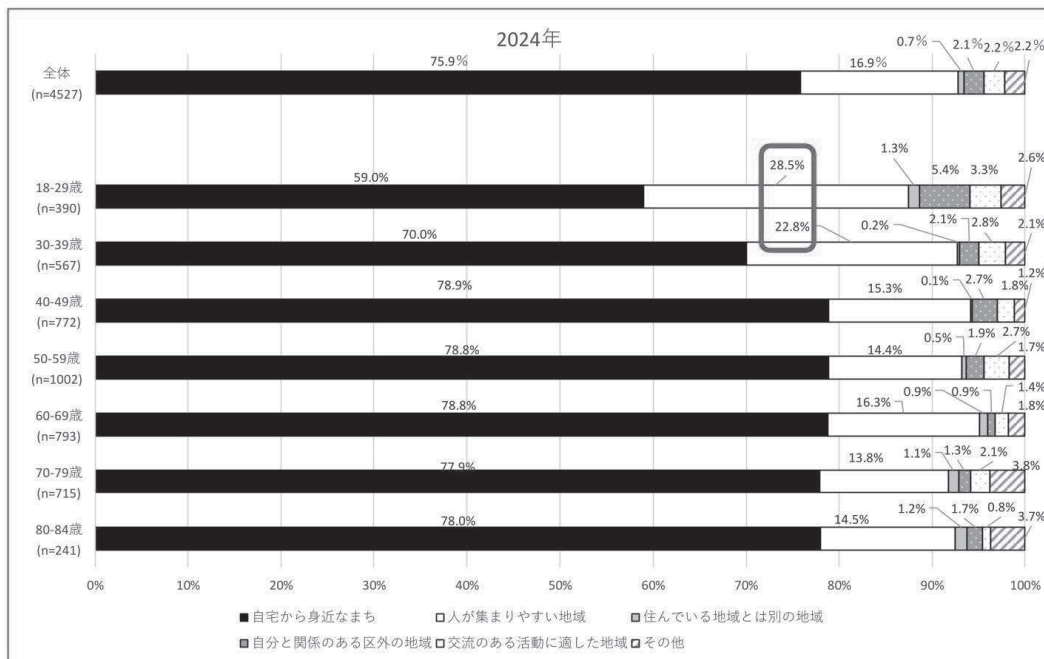
～「地域」のイメージ～



「地域活動」という単語を用いたときの「地域」のイメージ。
今年度調査から採用した探索的な観点。

【図 25】

地域活動：「地域」のイメージ



→18-29歳、30-39歳は人が集まりやすい地域をイメージしている割合が比較的多い

【図 26】

地域のイメージ

- ・地域のイメージは「自宅から身近なまち」がほとんどを占めたが、「人が集まりやすいまち」と考える人も一定程度見受けられた。
- ・30代以下の年齢層から「人が集まりやすいまち」をイメージする人が増えはじめる。

【図 27】

まとめ

- ・高年齢層の「身近なまち」や「近所」に対するコミットメントの程度の関連がより明確になりはじめた。
 - コロナ禍がどれだけ影響しているかは不明だが、高齢者層が近隣とのつながりに復帰してきている傾向が読み取れるかもしれない。
- ・比較的若い年齢層において、「地域」という単語が指し示すイメージが、変容しはじめている可能性あり。
 - 必ずしも「地域」＝「居住地」ではなくなりはじめているかもしれない。
- ∴ 「地域活動」や「地域コミュニティ」の捉え方を柔軟にとらえていく必要があるか。

【図 28】

参考文献

- 金澤良太・小山弘美・古賀奈穂,2022,「世田谷区におけるコミュニティの現状とコロナ禍の影響——『地域生活とコミュニティに関する調査』報告書——」せたがや自治政策研究所『せたがや自治政策Vol.14』,7-74.
- 鈴木広,1978,「コミュニティ論の今日的状況」鈴木広編『コミュニティ・モラルと社会移動の研究』アカデミア出版,9-31.

【図 29】

※一部表記の誤りが認められた部分は加筆・修正した